

● 4月に特別支援学校の小中学校が田平中学校の敷地に開設するに当たり、田平中学校をはじめ近隣の学校等との交流を深めることは、障害を抱える方々を理解し、支援する社会の第一歩だと考えるが、開校に至った経緯等について尋ねる。

市長 これまで佐世保以北の県北地区には特別支援学校小学部、中学部がなかった。障害のある児童生徒にとっては、特別支援教育の専門的な教職員から適切な指導を受けることが本来の教育環境であり、平戸市としても県北地区への設置について、平成28年7月に知事へ要望、平成29年10月に松浦市とともに県教育委員会へ要望を行った。知事及び県教育長から前向きな回答を得て、平成29年11月以降、主に県教育委員会特別支援教育課と話し合いを重ね、条件に合致する平戸市立田平中学校に併設することで合意。昨年度から工事が始まり、令和3年4月13日に佐世保特別支援学校北松分校開校式が行われる。平成22年に開校した佐世保特別支援学校高等部北松分教室と併せて、本市における特別支援教育の充実が現実と

松尾 実 (市民クラブ)

● 特別支援学校北松分教室開校について
● 本市における道路の維持管理について



教育長 令和3年4月入学予定の児童生徒は、小学部9名、中学部3名の12名の入学予定となっている。(定員約50名程度) ました。

◎ 国道383号線の中央線の実線、点線について尋ねるが、平戸大橋から志々伎までの区間(約32km余り)で、水垂町神場バス停付近までは、中央線が引かれているが、途中線が消えている箇所も多々見られる。また、幅員が5.5m以上ある箇所が29か所あったが、国道の維持管理は、県の所管であることは分かるが、市民の生活道路であり、産業、観光道路の観点からも安心安全の為に、早急な対応が必要ではないか。また、昨年の9号10号台風で、国道のカーブミラーも数か所壊れたままの状態に対応されていない。

建設部長 市民の方々から中央線が消えているので、カーブ等の区間でもあるので設置してほしいという要望も何か所がある。その都合、県に対して設置要望している。

● 新型コロナウイルス感染症の公表について
● 洋上風力発電の市の対応について



◎ 感染者公表の際、「住所」を「平戸市」「年齢」「性別」「職業等」「感染日」といった内容で発表されているが、もう少し詳細な内容の公表は出来ないのか。住民の行動変容や、心の安心にもつながるのではないかと考えている。「自分の身を守る為、より一層の予防のため必要だから、ある程度の公表をしてもいい」という意見が市民から多数あるが、どうお考えか。

市民生活部長 感染者についての情報は、県が把握しており、公表されている以外の公式な情報を、県から市に提供されておらず、市は発表に関し関与する事が出来ない。

◎ 洋上風力発電は国も推奨する再生可能エネルギー事業、環境に優しい産業として認識をしているが、このような、洋上への大型構造物を大規模に建設することによって、今の自然環境への影響が出ないわけがないと思っ

いと懸念している。「全国第二位の水産県長崎」、その中でも「有数の漁業の町」として、この事に関し平戸市としては、どのような考えであるのか

市長 農林水産部長に尋ねる。

市長 私は以前より、洋上風力発電に対し反対の立場を表明している。

農林水産部長 市としても反対を示してきた。洋上風力発電には開発プロセスの段階があり、まず近隣海域の漁業権者や許可所有者の同意が必要であり、長崎県でも、その話し合いのテーブルさえ作らない考えである。

◎ なぜ、長崎県はその考えを、早く県民や、多くの漁業者の方々に伝える事しないのか。発信をしなければ、新聞報道を肯定した事になり、県は洋上風力発電を推進していると認識されかねず、漁業者に不安を抱かせる結果になっている。市としても県の方に、「洋上風力発電を推進しない」方針の発表の働きかけをお願いしたい。

農林水産部長 先般、平戸市に來られた県の担当者に、市の考えや各漁協の考えを伝えたとのことである。

● 農林水産業振興策について

田島 輝美 (政和会)



◎ アフターコロナに向けた農林水産業の方向性を市長はどのようにとらえているのか。

市長 これまで重点施策に取り組んだ結果、園芸品目や肉用牛の生産など「コロナ禍でも大きな影響を受けない足腰の強い農林業の実現ができた。今後は経営体力の強化に取り組んでいく。水産業は外食産業への依存度が高く「コロナ禍に伴う影響が顕著であった。今後は新たな技術を活用した高鮮度流通対策及び加工の推進などに取り組んでいきたい。

◎ 本市の米生産と水田フル活用の推進について担当課としてどのように考えているのか。

農林水産部長 本市の米の販売額は10億9千万円で県の推奨品種である「なつほのか」などの高温耐性品種の作付拡大を推進、水田フル活用の推進については、WCS用稲や地域振興作物の作付けによる農業者所得の確保を図る計画としている。

◎ 今年度計画されている米乾燥施設について、どのように取り組むのか。

農林水産部長 本市における唯一の米の流通拠点となるために必要不可欠

欠な施設であると考えている。施設利用農家の作付面積を43haとし、4トン4基を計画している。

◎ 以前質問したバイオマス発電事業の進捗状況は。

農林水産部長 九電への系統接続料金の負担や諸般の事情により発電の事業協力者から撤退の申し出があった。

◎ 平戸市はこれまで再生可能エネルギー事業に取り組んできた。また、CO₂排出ゼロ宣言も行っている。これからの成長戦略として自治体新電力の考えを伺いたい。

副市長 自治体が出資する新電力会社については、昨年に災害時の電力供給安定化のために法律が作られた。発電したものを地産地消として地域に循環させることが大事。ロードマップを作って検討を考えている。

市長 自然を活用した電力エネルギーを住民に還元していくことが最終目的。私は、そのトップランナーとして平戸は走るべきであると考えている。地域電力会社というものを捉えながら努力していく。

市議会からのお知らせ

市議会（定例会・臨時会）は、原則、どなたでも傍聴することができます。

傍聴を希望される方は、市役所4階議場傍聴席までお越しください。

なお、議会開会中は、市役所本庁1階ロビー・支所・出張所等のテレビでの放映もご覧いただけます。

また、インターネット中継も行っています。ぜひ、ご覧ください。

次回定例会は、6月に予定されています。